

平成25年12月16日
日本医学会分科会用語委員会

分かりにくい医学用語を分かりやすく

田中牧郎
(国立国語研究所)

1

本日の内容

1. 国立国語研究所「病院の言葉」委員会の活動
2. 非医療者の認知度・理解度の調査
3. 「病院の言葉」を分かりやすくする提案
 - 類型A 日常語で言い換える
 - 類型B 明確に説明する
 - 類型C 重要で新しい概念の普及を図る
4. 患者にとって分かりやすい医療用語のために

2

1. 国立国語研究所「病院の言葉」 委員会の活動

3

委員会の活動のあらまし

- 「病院の言葉」を分かりやすくする提案
- 国立国語研究所「病院の言葉」委員会(2007-2009年)
(医療の専門家と言葉の専門家24名)
- 医療者が使う、患者に分かりにくい言葉を、分かりやすくする工夫を、医療者に対して提案
- 「病院の言葉」が伝わらない原因を探り、原因に応じた工夫を、類型にまとめる
- 各類型を代表できる言葉、57語について、分かりやすく伝える工夫の事例を示す
- 2009年3月 「病院の言葉」を分かりやすくする提案 発表
- 2009年3月 書籍『病院の言葉を分かりやすく』刊行

4

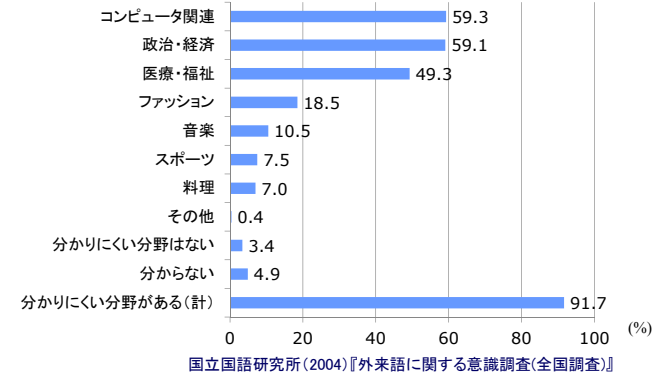
活動を始めたきっかけ

- 国立国語研究所では、国民にとって分かりにくい言葉を、分かりやすくする提案を実施してきた
 - 「外来語」言い換え提案(2002年～2006年)
- 分かりにくい用語を分かりやすくするには、各専門分野の人たちがその気にならないと、あまり効果がない
- 分野別に、その分野の専門家と協力して活動を展開するのが望ましい
- 外来語の調査で、医療の分野が特に重要だとわかった

5

外来語が分かりにくい分野

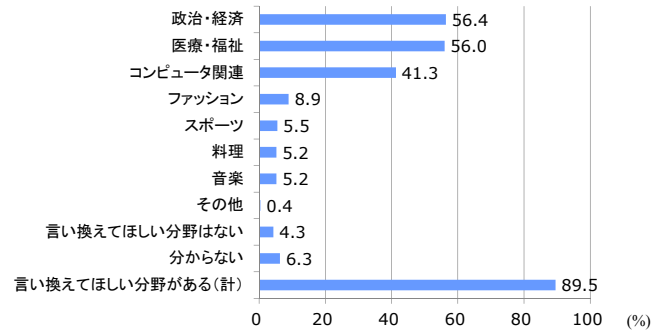
— 国民4,500人を対象とした面接調査【複数回答】—



6

外来語を言い換えてほしい分野

— 国民4,500人を対象とした面接調査【複数回答】—



7

内容の理解が必要な分野・場面の用語

— 外来語に限らず分かりにくいと困る—

- 医療用語：
 - 安心・安全の医療のために
 - 患者の円滑な意思決定のために
- 法廷用語：
 - 裁判員裁判を適切に運営するために
- 原子力用語：
 - エネルギーをどうするか議論のために

専門家に任せているだけでなく、市民にも主体的な判断が求められるように、社会のありようが変わってきた。

8

医療界での背景

- 患者中心の医療の広まり
- 医療者は説明をして、患者の同意を得なければいけない
- 患者は、説明を理解し納得した上で、自ら医療を選ぶことが求められる
- 説明は行われるようになったが、患者の理解と納得は十分得られていない
- 説明の言葉が分かりにくく、患者の理解と判断の障害になっている
- 言葉そのものと、言葉の使い方にも問題がある

9

2. 非医療者の認知度・理解度の調査

10

非医療者の認知度・理解度の調査

質問文 問1. あなたは、「ウイルス」という言葉を見たり聞いたりしたことがありますか。
 a ある b ない → 「ある」と回答した人の比率＝「**認知率**」
 [問1で、aと回答した人に]
 問2. あなたは、病院で使われる「ウイルス」という言葉が、「細菌より小さく、電子顕微鏡でないと見えない病原体」という意味であることを、知っていましたか。
 a 知っていた b 知らなかった
 → 「知っていた」と回答した人の比率＝「**理解率**」
 [問1で、aと回答した人に]
 問3. 次にあげるのは、「ウイルス」についての、ありがちな誤解や偏見、不正確な理解です。これらのうち、あなたがそのように理解していたものすべてを選んでください。(今はそのように理解していなくても、過去にそのように理解していたことがあれば、すべて選んでください)
 a ウイルスには、抗生剤がよく効く b 細菌と同じものである
 c ウイルスに感染すると必ず病気になる d ウイルスに感染した後も、ワクチンを接種すれば治る → それぞれを選択した人の比率＝「**誤解率**」

回収結果 全国20歳以上の男女4276人の回答をもとに数値化。

11

(1) 認知率が低い言葉 (知られていない言葉)

| 言葉 | 認知率 |
|---------|-------|
| 振戦 | 6.8% |
| クリニカルパス | 8.9% |
| 集学的治療 | 10.4% |
| イレウス | 12.5% |
| 寛解 | 13.9% |
| QOL | 15.9% |
| ターミナルケア | 32.7% |
| MRSA | 33.3% |
| 浸潤 | 41.4% |
| 重篤 | 50.3% |

12

認知率と接触頻度

| 言葉 | 認知率 | 一般媒体の頻度 |
|--------------|-------|---------|
| 振戦 | 6.8% | 0 |
| クリニカルパス | 8.9% | 0 |
| 寛解 | 13.9% | 2 |
| 間質性肺炎 | 23.4% | 1 |
| ターミナルケア | 32.7% | 10 |
| 浸潤 | 41.4% | 10 |
| 塞栓 | 51.2% | 7 |
| 狭窄 | 65.0% | 5 |
| インフォームドコンセント | 70.8% | 11 |
| 頓服 | 82.6% | 0 |
| 肉腫 | 86.3% | 2 |
| インスリン | 95.2% | 13 |

見かけることが少ないから知らない

見かけることが多くても知らない

見かけることが少なくても知っている

見かけることが多いから知っている

一般媒体の頻度 = 公共図書館が共通して所蔵する一般書籍での使用頻度
 > 国立国語研究所編『現代日本語書き言葉均衡コーパス』所収の「図書館 書籍 固定長サンプル群」 http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/

13

意味との結び付きやすさ

| 言葉 | 認知率 | 使用頻度 |
|---------|-------|------|
| ターミナルケア | 32.7% | 10 |
| 浸潤 | 41.4% | 10 |
| 塞栓 | 51.2% | 7 |
| 狭窄 | 65.0% | 5 |
| 頓服 | 82.6% | 0 |
| 肉腫 | 86.3% | 2 |

ターミナル = 終着駅???

浸潤 = 浸みて潤う???

塞栓 = 塞ぐ栓???

→ 意味と結び付けにくい
記憶に残らない

狭窄 = 狭く窄まる

頓服 = 薬の名前(種類)

肉腫 = 筋肉の腫瘍

→ 意味と結び付けやすい
記憶に残る

14

(2) 認知率が高いが、理解率との差が大きい言葉 (言葉は知られているが、理解されていない言葉)

| 言葉 | 認知率 | 理解率 | 差 |
|--------|-------|-------|------|
| ショック | 94.4% | 43.4% | 51.0 |
| 川崎病 | 79.3% | 31.1% | 48.2 |
| 膠原病 | 82.1% | 39.3% | 42.8 |
| 頓服 | 82.6% | 46.9% | 35.7 |
| ウイルス | 99.7% | 64.6% | 35.1 |
| ガイドライン | 89.6% | 57.0% | 32.6 |
| 敗血症 | 70.1% | 38.0% | 32.1 |

15

なぜ認知率が高いのに理解率が低いのか?

- 病名は記憶に残るが、あまり一般的でない病気は、その中身までは知る機会がない
 - 敗血症、膠原病、川崎病
- 間違った意味で覚えてしまう(誤解)
 - 頓服、ショック、川崎病

| 言葉 | 誤解 | 誤解率 |
|------|------------------|-------|
| ショック | 急な刺激を受けること | 46.5% |
| 川崎病 | 川崎市周辺で発生した公害病である | 35.0% |
| 頓服 | 鎮痛剤のこと | 34.1% |
| 頓服 | 解熱剤のこと | 33.4% |
| ショック | びっくりすること | 28.8% |

16

(3) 認知率と理解率、ともに高い言葉
(よく知られていて、理解されている言葉)

| 言葉 | 認知率 | 理解率 | 差 |
|------|-------|-------|------|
| ぜん息 | 98.3% | 84.8% | 13.5 |
| 糖尿病 | 99.5% | 87.5% | 12.0 |
| 悪性腫瘍 | 98.6% | 88.6% | 10.0 |
| 肝硬変 | 97.1% | 87.3% | 9.8 |
| 動脈硬化 | 97.2% | 92.8% | 4.4 |
| 血栓 | 94.6% | 90.8% | 3.8 |
| 脳死 | 98.3% | 96.6% | 1.7 |

よくある病気や症状を示す語が多い。

17

調査の詳細はホームページに掲載

- <http://www.ninjal.ac.jp/byoin/>

ほかに次のような調査結果も掲載している。

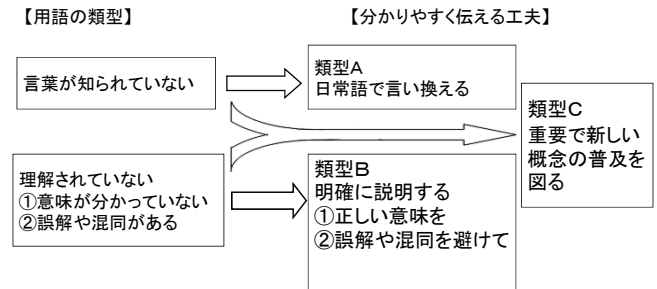
- 医師約400人に対して実施した、患者に言葉が伝わらなくて困った経験を書いてもらう調査。
- 医師約600人、薬剤師・看護師約1,000人に対して実施した、用語意識の調査。

18

3. 「病院の言葉」を
分かりやすくする提案

19

用語の類型に応じた工夫



医療者が患者に説明する場合の工夫として提案

20

類型A: 日常語で言い換える

認知率が低く一般に知られていない



できるだけ使わないようにし、
日常語を使って言い換えることが望まれる

イレウス, エビデンス, 寛解, 誤嚥, 重篤, 浸潤,
生検, せん妄, 耐性, 予後, ADL, COPD, MRSA

21

語別の工夫例 重篤 [類型A]

まずこれだけは 病状が非常に重いこと

言葉遣いのポイント

1. 一般の人には知られていない言葉(認知率50.3%)であるのに、患者に対してこの言葉を使う医療者は多い(医師65.7%, 看護師・薬剤師29.9%)。別の言葉で十分言い表すことができる意味であるので、「重篤」という言葉は患者には使わないようにしたい。(省略)

ここに注意

1. 類義の言葉に、「重症」「重体」「危篤」などがあるが、それらとの使い分けもあいまいで分かりにくい。命の危険があることを伝えたい場合は、「重篤」という言葉を使うのは避け、その旨をはっきりと伝えた方がよい。

22

語別の工夫例 浸潤 (がんの場合を例に)[類型A]

まずこれだけは がんがまわりに広がっていくこと

少し詳しく

がんがまわりに広がっていくことです。水が少しずつしみ込んでいくように、次第にがん細胞が周囲に入り込み、拡大していきます。

時間をかけてじっくりと

がんがまわりに広がっていくことです。「浸」はしめること、「潤」はうるおって水気を帯びることで、「浸潤」は、水が少しずつしみ込んでいくように、次第にがん細胞が周囲の組織を壊しながら入り込み、拡大していくことです。

23

浸潤 (続き)

言葉遣いのポイント

1. 認知率は41.4%と低いので、がんについての患者の知識が深くない段階では、まず、「浸潤」と言う言葉を使わないで説明したい。概念は分かりやすいので、「まずこれだけは」、「少し詳しく」に示したような表現で、言い換えると伝わりやすい
2. がんの治療法について患者自身が積極的に知ろうと努めているような場合などは、「転移」と対比する概念として、「浸潤」という言葉を覚えてもらった方が、治療法について患者の理解も深まるだろう。その際には、「時間をかけてじっくりと」に記したように、漢字を書き、漢字の意味の説明を添えると効果的である。
3. がんがからだのほかの部分にも広がることを表す「転移」という言葉は、「浸潤」に比べて、患者にもなじみがある。ただし、がんの広がりが方についての理解は不十分な患者も多いので、「転移」についても分かりやすい説明が必要である。例えば、『「転移」は、からだの離れた部分にがんが飛び火して広がること、『浸潤』は、がんがまわりにしみ込むように広がること』などと説明することが考えられる。

24

類型B: 明確に説明する

認知率が高く一般に知られているが、

①理解されていなかったり、
②誤解・混同されたりする言葉

↓

①正しい意味が理解され、
②混同が起きないように、
明確に説明することが望まれる。

25

**類型B①:
正しい意味を明確に説明する**

認知率は高く一般に知られているが、
理解率との差が大きく、理解されていない言葉

↓

正しい意味が理解できるように、
明確に説明する必要がある

インスリン、ウイルス、炎症、介護老人保健施設、
潰瘍、グループホーム、膠原病、腫瘍、腫瘍マーカー、
腎不全、ステロイド、対症療法、頓服、敗血症、
メタボリックシンドローム

26

語別の工夫例 炎症 [類型B①]

まずこれだけは からだを守るために、からだの一部が熱を持ち、赤くはれたり痛んだりすること

少し詳しく

「からだに侵入してきて悪さをする細菌やウイルスと、からだを病気から守る働きをする白血球が戦うと、赤くなったり熱を持ったりする「炎症」が起きます。細菌やウイルスが白血球にやっつけられると、膿になって出てきます。」

時間をかけてじっくりと

「からだは、何かの有害な刺激を受けたときに、これを取り除こうとして防御する反応が起こります。普通は、その反応の起きている場所は熱を持ち、はれ上がり、赤みがさし、痛みを感じます。これを「炎症」と言います。（以下、略）」

27

「炎症」続き

こんな誤解がある

- 炎症は皮膚の表面に現れる症状だけのことだと誤解している人がいる。そうした症状としてだけでなく、生体防御反応の仕組みとして理解してもらうことが、患者の治療への意識を高めるためにも重要である。
- 炎症を完全に止めたり、抑えたりすることを望む患者がいる。炎症を必要以上に抑えることは、からだを守る働きを弱める場合もあることを、必要に応じて説明したい。

言葉遣いのポイント

- 「炎症」という言葉はよく知られており、患者にとってもなじみはある（認知率98.4%）。しかし、正しく理解している人ばかりではない（理解率77.4%）。赤くはれて熱を持つ症状であることは理解していても、生体防御反応の仕組みを理解している人は少ないと考えられる。患者が、病気の治療や予防、あるいは健康管理を適切に行うためにも、生体防御反応の側面を理解してもらえるような説明が求められる。
- （省略）

28

類型B②:
誤解や混同を避けて明確に説明する

認知率は高く言葉はよく知られているが、
誤解や意味の混同が起きやすい言葉

↓

誤解や混同を避けて明確に説明する必要がある

合併症, ショック, 貧血

29

語別の工夫例 **合併症** [類型B②]

(1) 病気の合併症の場合

まずこれだけは ある病気が原因となって起こる別の病気

時間をかけてじっくりと

「合併症とは、ある病気が原因となって起こる別の病気です。例えば、糖尿病は血液中のブドウ糖の濃さが必要以上に高くなる病気ですが、この病気のために血管が弱ってきます。血管が弱ると、動脈硬化が起き、さらに脳梗塞などの病気が起こることがあります。」

(2) 手術や検査などの合併症の場合

合併症 → **併発症** または **手術併発症, 検査併発症**

まずこれだけは 手術や検査などの後、それらがもとになって起こることがある病気

時間をかけてじっくりと

「手術や検査などの後、それらがもとになって起こることがある病気です。例えば、消化器の手術をすると、腸の働きがこぶって腸がスムーズに動かなくなることがあります。そのために腸が詰まって腸閉塞が起こることがあります。これは必ず起こるわけではありませんが、どんな手術でも起こる可能性があります。」

30

語別の工夫例 **合併症** [類型B②] つづき

こんな誤解がある

- (省略)
- ②の手術や検査などに引き続いて起こる病気を、患者や家族は、医療ミスや医療事故だと考える誤解がある(19.1%)。どんなに注意深く手術や検査を行っても、起こることを防げないものであるが、このことが理解してもらえないために、訴訟などにつながる場合もある。

混同を避ける言葉遣いのポイント

- (省略)
- (省略)
- 「合併症」という言葉は、訴訟につながりかねない重大な問題を引き起こす危険性を持っている。こうした混乱が起こる原因の一つに、①ある病気が原因となって起こる病気の意味と、②手術や検査に引き続いて起こる病気の意味とを、同じ「合併症」という言葉で言い表していることがある。二つの意味を別の言葉で言い分けることも混同を回避するための一つの方法である。①の意味は「合併症」のままでよいが、②の意味には「合併症」は用いず「併発症」を用い、「手術併発症」「検査併発症」などの形で使うことが考えられる。ただし、その場合も「まずこれだけは」などに示したような説明を添えることが必要である。

31

類型C: 重要で新しい概念を普及させる

認知率が低かったり、理解率が低かったりする言葉の中には、新しく登場した重要な概念を表し、今後普及が期待されるものがある

↓

重要で新しい概念を普及させる工夫が望まれる

インフォームドコンセント, セカンドオピニオン,
ガイドライン, クリニカルパス, QOL, 緩和ケア,
プライマリーケア, MRI, PET

32

語別の工夫例 QOL [類型C]

医療が必要とされるのは、それまでには当たり前できていたその人の生活ができなくなったときです。医療を受ける動機を、患者の生活の視点で見つめることができる概念として、普及が望まれます。

まずこれだけは

その人がこれでいいと思えるような生活の質
その人がこれでいいと思えるような生活の質を維持しようとする考え方

少し詳しく

「不快に感じることを最大限に軽減し、できるだけその人がこれでいいと思えるような生活が送れるようにすることを目指した、医療の考え方のことです。」

33

語別の工夫例 QOL [類型C] つづき

言葉遣いのポイント

- 「QOL」は現状では認知度の低い言葉だが(15.9%)、医療や介護の現場で患者が今の生活の満足度を一言で表現するのに最も適切な言葉であるので、普及が望まれる。しかし、端的な訳語をあてるのも難しく、原語をカタカナ語にした「クオリティーオブライフ」も、覚えにくい。まずこれだけはに記したような、分かりやすい言い換えや説明を添えながら、「QOL」という語形を普及させるのが現実的である。

ここに注意

- (省略)
- 医療の現場で、患者が医師に「QOLが良い」「QOLが悪い」と言えるようになると、治療効果の判定や患者の生活がうまくいっているかどうか一言で分かるので、是非患者に覚えてもらいたい。

34

ホームページ

<http://www.ninjal.ac.jp/byoin/>




- 提案の全文を、見やすい形で掲載
- 報告書の印刷用PDFファイルも掲載
- 調査の方法や結果を詳細に掲載、データをダウンロードして使うことも可
- 委員会の議事要旨を掲載
- コラム、挿絵は掲載なし

35

『病院の言葉を分かりやすく—工夫の提案—』

国立国語研究所「病院の言葉」委員会編著 A5判並製264頁
勁草書房 定価2,100円(税込) 2009年3月発行



この本のねらい
分かりやすく伝えるには
分かりやすく伝える工夫の例
類型A 日常語で言い換える
類型B 明確に説明する
正しい意味を / もう一歩踏み込んで / 混同を避けて
類型C 重要で新しい概念の普及を図る
この本ができるまで

■コラム
患者はどう呼ばれたがっているか
医師の説明<悪い例・良い例>
不安の克服と信頼関係の構築
医療用語と漢字の難しさ
「なっとく説明カード」の効用 など全30編

36

4. 患者にとって分かりやすい 医療用語の設計のために

37

用語のあり方

- 医学用語(学術の世界で通じ合う用語)
 - 医学者・医療者のもの
 - 正確さ、簡潔さなどが重要
 - 数十万語規模
 - 日本医学会用語管理委員会
- 医療用語(医療に関わる人々の間で通じ合う用語)
 - 医療者・患者のもの
 - 分かりやすさなどが重要
 - 数万語または数千語規模
 - 医療用語は誰が設計するのか？

38

医療用語設計のポイント(1)

- 漢語は、漢字の効果的利用を
 - 常用漢字改定(2010年)で追加された漢字には医療用語に使われるものが多い
 - 咽鬱潰蓋骸顎嗅梗喉痕挫塞腫拭腎醒脊腺瘦唾瞳頓捻剝斑眉膝肘哺頬瘍
 - 意味と結び付けやすい造語を
- 外来語は、言い換えや言い添えの工夫を
 - 長い外来語、アルファベット略語はそのままでは使わない配慮を
 - インフォームドコンセント(説明と同意、納得診療)
 - QOL(その人がこれでよいと思える生活の質)

39

医療用語設計のポイント(2)

- 誤解や混同を避けるための用語改定の検討を(「病院の言葉」委員会での議論)
 - 糖尿病 → 高血糖症？
 - 合併症 → 手術併発症
 - ショック →
- 差別・不快を避ける用語改定(国、学会などの実績)
 - 痴呆 → 認知症
 - 優性・劣性 → 顕性・潜性
- 恐怖・不安に配慮した用語運用指針(「病院の言葉」委員会での議論)
 - 副作用、悪性腫瘍

40

第28回日本医学会総会市民公開シンポジウム
「ことばが変える日本の医療～市民とともに医学用語を考える」

2011年4月6日(水) 丸ビルホール (震災により中止)

<司会>黒岩祐治 <開会挨拶>大江和彦

<講演>

1. 「社会における医学用語－問題解決を目指して－」 青山洋右
2. 「病院のことばをわかりやすく」 田中牧郎
3. 「医学用語の難しさ－漢字の視点から－」 笹原宏之
4. 「医学用語の難しさ－薬剤名の視点から－」 土屋文人
5. 「医学用語の難しさ－マスコミで伝える視点から－」 関根健一
6. 「医療情報へのよりよいアクセス－行政の試みと問題点－」 河原和夫
7. 「医学用語について思うこと－患者の視点から－」 喜島智香子
8. 「診察室の工夫－患者さんにQOLを使ってもらおう－」 矢吹清人
9. 「子どもにもわかってもらうには?－小児医療のコミュニケーション－」

森内浩幸

講演者によるパネルディスカッション

41

第28回医学会総会「ことばが変える日本の医療」
シンポジウム宣言文案

医学用語は、医学・医療の専門家の中で使われてきた専門用語ですが、診療の場で患者も共有する「ことば」であり、テレビや新聞の報道にしばしば現れて市民生活に影響を与える「ことば」でもあります。このため、一般社会でも使われる医学用語は、容易に理解できる用語であることが望まれます。

しかし、現状では、医学用語を改善したり、新しい医学用語を追加したりする場合は、医学の専門団体の中にしかなく、このことが、時に一般社会との間で誤解や摩擦を呼ぶことになっています。

42

第28回医学会総会「ことばが変える日本の医療」
シンポジウム宣言文案(続き)

以上の背景を考えると、今後は、医学の専門家と医師以外の医療職、患者を含む一般市民、ジャーナリスト、医療関係企業、医療行政関係者の間で医学用語について意見を交換する場が必要です

このシンポジウムの参加者は、今後関係者が努力してこのような共通の場を作ることを提言します。

2011年4月6日(採択予定)

第28回日本医学会総会 一般公開シンポジウム
「ことばが変える日本の医療－市民と共に医学用語を考える－」
参加者一同

43

御清聴ありがとうございました

44